

がっこう 動物新聞



日本小動物獣医師会版

2013年

第6号 (通算)

今回はウサギとモルモットの子育てについてのお話です。



「生まれた子どものお世話で一番大切なことは、お母さんウサギやお母さんモルモットが、安心して子育てができるように静かに見守ってあげることさ！そして何でも担当の獣医師さんに相談することだよ」



うさぎの子育て

生まれたばかりの子ウサギには毛は生えておらず目も見えず、うまく動くこともできない、いわゆる「アカハダカ」の状態で転がっていることが多いでしょう。でも、お母さんウサギは子育てをしていないではありません。ウサギの授乳は一日に一回くらいといわれるくらいで、お母さんウサギにくっついてのを見るのはなかなか難しいのです。生後2週間もすればふんわり可愛い子ウサギとなり、親と同じものも食べますが、生後2か月くらいは、お母さんのおっぱいを飲みます。

親子ウサギのお世話について

お母さんウサギにフードや牧草、野菜をいつもより多めにあげます。水もたっぷり飲めるようにしてください。ケージを掃除するときは、アカハダカの子ウサギは素手では触らないように、軍手やタオルを使ってやさしく扱ってください。

子ウサギがフードを食べるようになったら、子ウサギ用のフードも用意しましょう。



モルモットの子育て

およそ70日間の妊娠期間のうちに生まれてきます。モルモットの赤ちゃんは、ウサギとまったく違っています。生まれた時には毛もふさふさ生えて、目も見えていて、しかも歩くところか走ることもできます。生まれたての赤ちゃんモルモットは、ちょうどハムスターくらいの大きさです。お母さんのおっぱいも飲みますが、すぐにお母さんのフードや牧草も食べます。お母さんと鳴きあいながらケージの中をうろろします。びっくりすると、赤ちゃんが全員お母さんのおなかの下にもぐってしまします。

お母さんと赤ちゃんモルモットのお世話について

もともと怖がりな性質なので、普段以上に静かにやさしく見守る必要があります。無事に生まれたら、毎日体重を測りながら成長の様子を見ます。フードは若いモルモットが食べる分も与え、牧草もたっぷりあげてください。お水も綺麗なボトルに切らさないように気を付けます。体重が200gになれば(生後3週齢以降)親から離して新しい場所へ移すことができると言われていますので、慣れた食事と一緒に送り出してあげてください。オスとメスの見分けは担当してくれる獣医師に尋ねましょう。いつまでも一緒にしておくと、あっという間に繁殖可能な月齢(3ヶ月齢以降)になって、親兄弟で交配してしまうことがあります。



補助犬を知っていますか？

目の見えない人のお手伝いをしてくれるのが**盲導犬**

耳の聞こえない人のお手伝いが**聴導犬**

体の不自由な人のお手伝いをしてくれるのが**介助犬**

この3つを「**補助犬**」といいます。

聴導犬は、耳の聞こえない人に、インターホンやファックスの音を知らせてくれるんですよ。



先生・保護者のみなさまへ

命が生まれるということは、自分も含め奇跡のようなものかもしれません。今まで存在しなかったものが現れて、お母さんウサギを頼ってただひたすら生きていこうとする。その様子を観察するチャンスは、なかなかありません。子ウサギの飼育について予定をたてておけば、子供たちに体験してもらうことができます。獣医師は子ウサギをいつ頃親から離して、新しい飼い主の元へ移すか準備のお手伝いをします。

獣医師会は、学校の動物飼育を応援しています。学校で飼育している動物のことならどんなことでもご相談ください。

連絡先

一般社団法人 **日本小動物獣医師会**

〒105-0014 東京都港区芝2-5-7 芝Jビル5階

TEL 03-5419-8465